

第 39 回北九州市 PCB 処理監視会議

1 開催日時 平成 30 年 1 月 25 日（木）14：00 開始 16：00 終了

2 開催場所 若松市民会館 小ホール

3 会議次第

- (1) 北九州 PCB 廃棄物処理施設の操業状況等について
- (2) 今後の安全かつ早期処理完了に向けた取組について

4 出席者

(1) 委 員

浅岡 佐知夫	座長	内山 仁志	委員
大石 紀代子	委員	河井 一明	委員
清田 高德	委員	古柴 敏夫	委員
坂田 信子	委員	末松 正典	委員
高尾 俊春	委員	津田 潔	委員
成田 裕美子	委員	松永 裕己	委員
山口 隆広	委員	吉永 耕二	委員

(2) 中間貯蔵・環境安全事業株式会社

事業部長	吉口 進朗
事業部次長	足立 晃一
事業部安全操業課 上席調査役	高橋 亮介
営業部営業企画課長	福嶋 慶三
環境安全監査室 北九州環境安全監査職	吉田 春彦
北九州事業所長	安井 仁司
北九州事業所副所長	宗佐 和彦
北九州事業所副所長	津森 学
北九州事業所 審議役	岳田 正徳
北九州事業所 総務課長	庄村 俊彦
北九州事業所 運転管理課長	大山 公人
北九州事業所 運転管理課 上席調査役	佐藤 淳
北九州事業所 営業課長	宮本 修治
北九州事業所 近畿・東海エリア分室長	小河原 正嗣
北九州事業所 シニアアドバイザー	入江 隆司

(3) 関係行政機関

環境再生・資源循環局 廃棄物規制課長	成田 浩司
環境再生・資源循環局 廃棄物規制課長補佐	福井 和樹
環境再生・資源循環局 廃棄物規制課係長	小福田 大輔
九州地方環境事務所	
廃棄物・リサイクル対策課調査官	岡山 俊直

北九州西労働基準監督署 安全衛生課長
若松海上保安部 海上環境係長

高野 隆一郎
浜田 貴久

北九州市

環境局長
環境局環境監視部長
産業廃棄物対策課長
若松区役所コミュニティ支援課長
上下水道局水質管理課長
消防局規制課危険物係長

近藤 晃
谷貝 雄三
佐々木 健志
西山 陽子
寺師 朗子
塔迫 弘章

(4) 事務局（北九州市）

環境局環境監視部環境監視課長

宮金 満

5 議事概要

○事務局

定刻前ではございますけれども、委員の皆様方おそろいですので、ただいまから第 39 回北九州市 PCB 処理監視会議を開会いたします。

まず最初に、お手元ご配布の資料のご確認でございます。資料 1-1～4-2 まで、それぞれホチキス留めしてございます。最後に、参考資料 1 参考資料 2 というふうに配布をさせていただきます。不足等ございましたら、事務局までお申しつけください。よろしいでしょうか。

それでは、開会にあたりまして、北九州市環境局長の近藤より、一言ご挨拶を申し上げます。

○北九州市

それでは、開会にあたりまして、ご挨拶を申し上げます。

委員の皆様方におかれましては、日頃から北九州 PCB 処理事業をはじめといたしまして、本市の環境行政にご理解、ご協力を頂いております。この場をお借りいたしまして、厚く御礼を申し上げます。また、本日はお忙しい中、そして、何と申しまして、この厳しい寒さの中で、第 39 回 PCB 処理監視会議にご出席いただきました。誠にありがとうございます。午前中には、事業所内への立入りも行っていたとお伺いしております。長時間にわたり、大変ご苦勞をお掛けいたしますけれども、どうぞよろしくお願い申し上げます。

さて、北九州の PCB 処理事業はご案内の通り、現在、全国の中でも最も早いスケジュールで処理が進められているところでございます。今年の 3 月末日には北九州事業エリアの変圧器・コンデンサーに関しまして、全国で最初に処分期間の末日を迎えるという運びになります。このため、JESCO、国、そして北九州市の他、関係自治体も含めた連携体制によりまして、期限内に確実に処理完了すべく、あらゆる対策を講じているところでございます。

また、PCB 廃棄物の処理にあたりましては、安全性を確保することが大前提でございます。JESCO・国・北九州市の三者がそれぞれの立場における役割から、しっかりと安全対策に取り組みまして、引き続き処理の安全性の確保に努めているところでございます。

本日の会議におきましては、処理施設の操業の状況、環境モニタリング結果などのご報告に加えて、期限内処理完了の見通し、今後の安全かつ早期の処理完了に向けた、具体的な取り組みにつきまして、それぞれのお立場からご報告させていただきます。

忌憚のないご意見を賜れば幸いです。本日は、最後まで、どうぞよろしくお願い申し上げます。

○事務局

ありがとうございました。それでは、ここからの議事進行につきましては、座長にお願いしたいと思います。座長、よろしくお願いいたします。

議題 1 北九州 PCB 廃棄物処理施設の操業状況等について

○座長

それでは、本日の議事に入ります。まず、議題 1「北九州 PCB 廃棄物処理施設の操業状況等について」、まず JESCO から説明をお願いいたします。

○JESCO

資料 1-1 に基づきまして、「北九州 PCB 廃棄物処理施設の操業状況及び処理の見通し」について、ご説明をさせていただきます。

表 1 でございます。こちらは、前回までもこういった表でご説明させていただいております。縦軸に「変圧器類」「コンデンサー類」「安定器及び汚染物等」ということで処理をしているものごと、また横軸に、「北九州事業エリア」「東京事業エリア」「豊田事業エリア」「大阪事業エリア」と、場所で示しております。当初から処理しています「北九州事業エリア」のものにつきまして、まずご説明させていただきます。

変圧器類でございますけれども、処理台数 2,681 台ということで、この 6 ヶ月間で 27 台の処理をしております。登録されております台数でございますが、この 6 ヶ月間で 22 台減りました。また、処理対象台数についても 43 台減っております。こちらは、もともと私どもが処理しなければいけないとされていた変圧器のうち、PCB の濃度が薄い等々で、私どもでの処理対象ではなくなったといったところでございまして減っております。処理率でございますが 99.4%で、もう少しというところまできております。

コンデンサー類でございます。こちらは、処理台数 4 万 8,985 台ということで、この 6 ヶ月間で 900 台ほど処理を進めております。こちらは、逆に登録台数及び処理対象台数が少し増えてございます。処理対象台数

で言いますと、前回の資料から 382 台増えたというところがございます。また、後段の資料でこのあたり、ご説明させていただきます。処理率は 96.1%でございます。

安定器及び汚染物等につきましては、この 6 ヶ月間で 67 トンほど処理しまして、2,949 トン処理ということで、処理率 95.3%となっております。

その横の東京事業エリアは、平成 27 年度以降、東京エリアのものを一部北九州に運ばさせていただいて処理を進めております。5,567 台の処理が終わっております。1,200 台ほど、この 6 ヶ月間で処理いたしまして、処理率 79.5%ということで、前回から 17%ほど進捗をしたというところがございます。

豊田事業エリアの変圧器は、車載変圧器という特殊な変圧器ということになります。こちらは 82 台の処理を終えております。6 ヶ月間で 20 台処理が増えてございまして、処理率 74%くらいになってございます。

この豊田事業エリアからの変圧器でございますけれども、弊社の豊田事業所のほうで設備改造等々しておりまして、処理能力が上がっておりますので、今、111 台が処理対象となっておりますが、さらにこれは減る見込みとなっております。次回の監視会議では、どういう状況か、また追加でご説明ができるかと思っております。

また、豊田及び大阪事業エリアからは、安定器及び汚染物等の処理をさせていただいておりますけれども、豊田事業エリアが 650 トン、大阪事業エリアが 586 トンということで、前回から 170~180 トンくらい、それぞれ増えているということでございます。処理率 31%くらいまで進捗しているというところがございます。

5 ページ以降にもう少し詳細を示しております。29 年度、この 6 ヶ月間のものを黄色く着色しておりますが、月ごとの、5 ページは搬入、6 ページも搬入、7 ページからが処理状況、そして、8 ページ、9 ページ、10 ページにつきましては、処理に伴いまして発生する有価物、金属類ですとか、また私どもから、もう一度産業廃棄物として処理しなければいけないもの。これらが、月ごとにどういう発生状況か、また、払い出しがどうなったかということ。平成 28 年度までは年度ごとということで、総数が分かるように示させていただいております。

11 ページ、最後のところに平成 29 年度は、大きなトラブルもなく順調に処理をしてきているというところがございますけれども、四半期ごとの処理状況ということで、表形式に纏めております。

表の一番右枠に、第 3 四半期までの進捗率ということで、計画どおりであれば 100%というところがございますが、変圧器でいいますと、大型のものと車載のものは、ほぼ計画どおりに進んでおります。小型の変圧器でございますが、先ほど表 1 のところでご説明しましたとおり、56 台を対象として計画を組みましたけれども、私どもの処理対象物がほとんどないということでございましたので、現在まで 26 台ということで、率は上がっておりませんが処理は順調に進めているというところでご

ざいます。

コンデンサー、並びに安定器及び汚染物等ですが、これらも 100%を越えた率、計画以上の処理が進んでいるというところでございます。括弧書きのところは、第 4 四半期までの 100%に対してどうかということで、75%あれば、計画どおりという数字のものを示させていただいているというところでございます。

下のほうは、前回の会議でもご説明させていただきました、長期処理計画でございますが、変圧器及びコンデンサーは遅くとも来年度、平成 30 年度中には処理をしてしまう計画で、これに向けて順調に進めているというところでございます。

資料の前のほうに戻っていただきます。2 ページの中段からでございますけれども、「2. 変圧器・コンデンサー等の期限内処理の見通し」というタイトルで、今回、新たにご説明させていただこうと思っております。

(1)「現状」でございます。自治体と連携いたしまして、法律に基づいて、PCB 廃棄物として届出されたものと、私どものほうに処理の登録をされたものを照らし合わせまして、まだ処理をされていない事業者一覧表を、自治体毎に整理しております。それに基づきまして、自治体、また環境省も、地方環境事務所がそれぞれのエリアごとにご担当がいらっしゃると思いますので、この方達と連携いたしまして、今年度中の処理完了、もしくは今年度中の処理委託契約締結に向けて、取組を進めさせていただいております。

「①掘り起こし等の取組状況」ということでございますけれども、これは各自治体を中心に、どこにあるのかを見つけ出す取組をしていただいております。こういった取組によりまして、新たに見つかった変圧器、コンデンサーが登録された状況について、各月ごとにどれくらい登録されたかというのを表で示させていただいております。7～10 月くらいまで、100 事業所前後ということでございましたが、11 月、12 月と 60 件台まで減ってきたということで、ほぼ 12 月のうちには、各自治体ごとに行った掘り起こしが終わったと伺っております。

それを受けまして、私どもはその対象となったものについて、JESCO にまず登録をいただいて、契約をしていただいて、搬入していただいて、私どもが処理をするということになります。

まだ登録いただいていない方、また、その先の契約をされていない方という事業所数の推移ということになります。契約締結は、毎月 100 件～200 件程度ということで、新たに見つかるもの以上の契約をしてきておりますので、このまま進めて、3 月中には全部の契約を終えたいという取組をしておりますけれども、次のページの表 3 に示させていただいておりますが、一番右のところは直近の 12 月末時点でございます。未登録の事業所が 17 県エリアの中で 18 ございます。まだ契約されていない方が、121 いらっしゃいます。合計 139 の方が、まだ契約に至っていないというところでございます。コンデンサーで 500 台くらい、変圧器が 5 台ということでございます。

その上に書いていますが、今年度中に全ての契約を締結させていただこうということで、私どもの本社から営業課への支援体制を強化しておりますし、また、中小企業には一部処理費に対して補助金が出るわけですが、この補助金の該当者かどうかというところにつきましては、独立行政法人環境再生保全機構に申請して、審査を受けるということになっておりますので、この事務手続きが早く進むように、申請の受付日を増やすという対応をいただきまして、契約手続き等がスムーズに進むように努力しているところでございます。現状では、特例処分期限日までの処分委託は確実というふうに考えてございます。

下のところにグラフを示させていただいております。折れ線の緑の線が右肩下がりで推移しているということで、減ってきているというところでございます。

(2)「課題と処理の見通し」ということで、少し課題等々をご説明させていただきます。まだ未登録、未契約の保管事業者の中には、やはり処理費用の工面が困難でありますとか、処理制度に納得できないなどの理由で、登録や契約手続きが進まない事業者もおられます。処分期限の末日までに、このまま処理に応じてもらえないということになりますと、処分期限後に行政による改善命令、また、行政代執行といったものの対象になるということでございます。

当社といたしましては、処分期限内にまず処理委託契約を締結し、平成 30 年度になりましても、早い時期に処理されるよう、働きかけております。現在でも、当社による説得では、なかなか応じていただけない方には、自治体、また、環境省地方環境事務所の方に対応をご相談して、説得等々を行っていただいているところでございます。万が一、処分期間を経過した場合には、直ちに法律に基づきまして改善命令に必要な手続きが開始されるというところでございます。行政代執行の実施の可能性を見据えまして、必要な準備が進められることになっておりまして、最終的には行政処分等の実施も含め、契約が完了されるものというふうに考えておりますけれども、処分期間末日までに契約に至らない可能性のある事業者が、日々少し変動はありますけれども、12 月の時点では 7 件ほど考えられるというところでございます。

4 ページ、「②処理の見通し」、残っている台数ですけれども、12 月末時点で 1 月以降、変圧器のほうは豊田エリアの車載変圧器を外しまして、残っているものは限られておりますので、何とか今年度中に契約等々整えれば、処理をしてしまうという考えで取り組んでございます。コンデンサーでございますけれども、こちらは年間大体 4,500 台程度の処理能力がございまして、12 月の末時点で、1 月以降の処理対象量でございますが、これが 3,400 台ということで、今年度中、残り 3 ヶ月で 1,300 台程度、処理の計画の予定ができております。残りが 2,100 台ということになります。十分、平成 30 年度中に処理できる能力というところでございます。2,100 台のうち半分程度は、北九州の 17 県エリア、あと半分程度は東京事業エリアから運ばせていただいて、処分させていただくというもので、東京事業エリアのものは多量保管事業者で、計画的

に搬入して処理。北九州事業エリアのものについては、1社1社はそれほど多く持っていない、少量の方でございますので、集中搬入期間を設定して効率的な搬入を行っていただきまして、処理を行いたいと考えてございます。

説明は以上でございます。

○座長

続きまして、資料 1-2「北九州 PCB 廃棄物処理施設の環境モニタリング結果」について、まず JESCO から、引き続いて、北九州市から説明をお願いいたします。

○JESCO

引き続き、資料 1-2「北九州 PCB 廃棄物処理施設の環境モニタリング結果について」というところでございます。1 ページの上半分に、私どもがこの 6 ヶ月間に行いましたモニタリング結果の概況を記載させていただいております。

(1)「周辺環境」のモニタリングでございます。こちらは、大気につきまして、PCB、ダイオキシン類、ベンゼンの全ての項目につきまして、環境基準等に適合しております。水質、地下水、土壌、底質、生物につきましては、来月実施予定でございますので、次回の監視会議でご報告できるかと思います。

(2)「排出源」、建物から外へ出すものでございます。排気中の PCB、ダイオキシン類、ベンゼン、硫酸化合物、窒素酸化合物、塩化水素、ばいじんの全ての項目につきまして、協定値等に適合してございました。また、排水の PCB 及び雨水の PCB、ダイオキシン類は基準に適合していたというところでございます。悪臭及び騒音につきましては、来月 2 月に実施を予定してございます。

3 ページが「周辺環境」の「大気」でございますけれども、夏と秋の測定が、今回新たに加わっております。黄色く着色させていただいております。4 ページ、5 ページがそれ以外でございまして、「水質」も夏と秋のデータが出ておりますが、ほか「地下水」以降は 2 月の測定ということで、過去 3 回分、平成 26 年度以降の結果を掲載させていただいておりますが、黄色い着色部分が今回新しい追加分でございます。

6 ページ以降が、「排出源」のうち、「排気」が 6 ページ～12 ページのところまで続きます。後ろの 18 ページに、モニタリング計画と言っているもので、どこの系統でこういった物質を年に何回測定するかという計画を作っておりますが、これに基づきまして測定をしているというところでございます。

以上でございます。

○北九州市

続きまして、北九州市で行いました測定の結果について、ご説明します。

まず1ページの下段の部分に、概況を記載しております。(1)「周辺環境」でございますけれども、大気につきましては、PCB、ダイオキシン類、ベンゼンの全ての項目について、環境基準等に適合してございます。それから、水質、底質、土壌につきましても、PCB、ダイオキシン類ともに環境基準等に適合してございます。

JESCO から出ます排出源の排ガスにつきましては、PCB、ダイオキシン類、ベンゼン、硫黄酸化物、窒素酸化物、塩化水素、ばいじんの全ての項目について、協定値に適合してございます。公共下水道排水、雨水排水につきましても基準に適合してございます。

個別に18ページから、前回、夏の監視会議以降に測定したものについて、黄色でハイライトして、測定値を載せてございます。

以上でございます。

○座長

では、今の説明に対して、意見や質問がございましたら、委員の方、よろしくお願いします。

○委員

資料1-1の3ページ、未登録、未契約の件です。一応、右肩下がりというのは、これは0に向かって行く数値ですよ。それで、万が一、未登録のほうですが、次の月がこの数字よりも上回るということは可能性としてあるのでしょうか。これがまず1点です。

もう1つが、資料1-2の3ページ、ダイオキシンが0.11pg-TEQ/m³になっています。基準値内なのですが、今まで直近よりも値が大きい場合はPCB起因かどうかというのを調べていたと思うのですが、今回もPCB起因によって一桁上になったのかどうかは調べたのでしょうか。その2点のお伺いします。

○JESCO

資料1-1の3ページでございます。未登録の事業所数と未契約のグラフ、139件まで減ってきたというご説明をいたしました。当然、3月末までに全数契約をするということでございまして、資料の中ではなかなか契約に応じていただけない方で難しそうだということで、7件というのは今のところ上がっておりますが、これを0にするということで、関係の方と協力をして進めているところでございます。

資料1-2の3ページでございます。秋のデータのダイオキシン類でございます。確かに0.11pg-TEQ/m³ということで、直近の夏の0.016pg-TEQ/m³ですとか、春の0.028pg-TEQ/m³に對しまして、一桁上というところになっております。0.11pg-TEQ/m³の内訳といたしまして、PCB由来のものは10%程度ということで、残りはポリ塩化ジベンゾダイオキシンですとか、ポリ塩化ジベンゾフランという別の物質で上昇したといったところは確認しています。

○座長

よろしいですか。他に。

○委員

今の質問と少しだぶりますけれども、資料 1-1 の 3 ページの課題のところで、未登録の企業が先ほど 7 件残っているという話でした。12 月 21 日時点で 7 件ですということで、3 月までに 0 にするというところで、その可能性と見通しというのは何か分析されていれば、教えてもらいたいと思います。

○環境省

今の説明に補足をさせていただきます。現時点で未登録が 7 件ではありません。未登録はあくまで 18 件でございます。この 7 件というのは何かと申しますと、未登録、未契約の中で特に年度内の契約が難しい可能性がある、例えば、もう既に法人が倒産などして消滅をしているとか、非常に資金面で処分をしていただくのが難しいということです。こちらについては、あくまで現時点での我々の見込みです。処分を完了するお約束の期限は来年度末で、今年度末というのは法律上の期限でございます。ここでいったんの期限を切らせていただいて、それでも処分が完了しない方々に対しては、法的措置を講じさせていただくということになっております。年度明け早々から関係自治体の皆様とも協力をして改善命令、または改善命令をかけても処分をいただけない方々に対しては、行政が代わって処理をするという、行政代執行という措置を講じるということで、来年度かけて処分を完了させることを現在準備をしています。そのためにも、まず現状の事業者の状況、どういった廃棄物の種類を持っているのか。それを処分するためにかかる費用はどういったものなのかといった情報収集をしていくことが重要でございますので、そういった個別事業者を特定して、しっかし年度明け早々から動けるようにしていく必要があります。

○委員

分かりました。

○座長

よろしいですか。他にどなたか。

○委員

これに対しては、登録した人に対して未契約ということであると思うのですが、まだ登録されていないものというか、漏れているものがもう完全になくなっているかどうかだけを教えていただければと思います。

○環境省

こちらにつきましては、今年の 12 月、1 月くらいまでかけて、処理

エリアの自治体、県と市の皆様と環境省、および経済産業省と連携をいたしまして、掘り起こし調査というものを行っています。これは、変圧器・コンデンサーを持っている場合は、PCBが入っていようとなかろうと電気事業法上、届出が必要となっております。この届出を行っている方々に対して、PCBが入っている変圧器・コンデンサーが残っていないかを確認し、おおむね完了しているものでございます。

これによりまして、環境省としては、今後、大きくそういったものが見つかるということは、もうほぼないと思っておりますけれども、まだ残念ながら、確認が漏れていたというものが、現在も少しあるというのが事実でございます。こういったものを、年度内をかけてしっかりとなくしていくことを、最終的な確認という意味での取組んでやっていきたいと思っております。後ほどの議題で環境省の取組でもご説明をさせていただきます。

○座長

よろしいですか。

先ほどの7件という予想の数ですけれども、これに対して行政処分を想定して準備するということでしょうか。

○環境省

数字が出ておりますので、こちらの数字が独り歩きすることを懸念しております。こちらについては、あくまでこちらの資料を作成させていただきました12月21日時点の数字でございます。今後、その事業者の状況を確認する中で、やはり景気悪化、業績悪化等で処理ができなくなる可能性もあったりしますし、現場の職員が非常に精力的に説得を行っていることにより、融資制度の活用なども促して、処理が法的措置を講じずとも処理していただける可能性もありますので、この数字は変動するものだと思います。7件であるかどうかは別にいたしまして、行政処分を直ちに行えるような準備は、関係自治体と連携して進めていくところでございます。

○座長

ありがとうございます。他にございますか。

○委員

資料1-2の別添1で、ダイオキシンの昨年度の秋季0.57 pg-TEQ/m³という数値があるのですけれども、今回、これが同じ時期なのですから、これはたまたまなのでしょうか。それとも時期的なものが起因するのか、この辺はいかがでしょうか。

○JESCO

前回の28年度の秋も0.57 pg-TEQ/m³ですが、確か、この時は大半がポリ塩化ジベンゾダイオキシン（PCDD）という物質だったという報告

をさせていただきました。今回は、もう 1 つの物質、ポリ塩化ジベンゾフラン（PCDF）のほうが比率としては高かったということでありまして、少し構成の割合は異なっているというところでございます。たまたまこの時期というふうには考えてございます。

○座長

今の説明からすると、原因は、平成 28 年度の結果と平成 29 年度の結果は異なると考えていらっしゃるということですか。

○JESCO

はい。構成を見ていきますと、少し異なっておりますので、原因も違うのではないかというふうに考えてございます。

○座長

もう 1 回、記憶を確認したいのですけれども、平成 28 年度の時の原因は何と想定したのでしょうか。

○JESCO

構成比率といたしまして、3 つの大きく種類があって、ダイオキシン類と言っております。PCB に関係するものは 1 つでございますが、略称でいいますと PCDD（ポリ塩化ジベンゾダイオキシン）というのと、PCDF（ポリ塩化ジベンゾフラン）というものがあります。前回、平成 28 年度は PCDD のほうでございまして、今回は PCDF のほうが PCDD よりも 3 倍ほど多いという状況でございまして、構成比率が違うなと思っておりまして。

○座長

構成比率ではなくて、平成 28 年度に推定した原因は何と推定されていきますか、今回は原因は何だとお考えですかということです。両方とも施設から出たダイオキシンですかという質問なのです。

○JESCO

私どもの施設から、こういった排出源モニタリング等々の結果を見ますと、PCDD ですとか PCDF といったものは排出しておりませんので、私どもの施設からの原因ではないということは、いずれも確認しております。

○座長

他にございませんか。では、なければ次の議題に移りたいと思います。

議題 2 今後の安全かつ早期の処理完了に向けた市の取組について

○座長

議題 2「今後の安全かつ早期の処理完了に向けた市の取組について」、JESCO から説明をお願いします。

○JESCO

資料 2-1 を見ていただければと思います。資料のタイトルといたしましては、「PCB 廃棄物の早期処理に係る JESCO の取組」とさせていただいております。本日午前中には、施設を視察いただいた方には、見ていただいたのですが、1 つの取組といたしましては、1 ポツでございますが、プラズマ処理しております安定器、この処理対象量適正化の取組ということでございます。

前回、7 月 11 日に開催いただきました監視会議におきまして、1 日も早く安定器の処理完了のために、まず処理対象物の適正化を図る取組といたしまして、安定器を保管されておられる方に「仕分け」といった行為を徹底して進めていただくということをお願いするということで、ご説明させていただきました。

「仕分け」というのは、ドラム缶とかペール缶、金属容器に取り外した安定器を詰めて、私どもの施設に PCB 廃棄物として運ばれて来るわけですが、同じ時期につくられた安定器といいまして、PCB を使っていないものもございます。そういった使っていないものが一緒にドラム缶に入っているということがあってはいけないということで、保管場所で「仕分け」ということで、PCB を使っていない安定器を取り除くということをお願いするということ。また、コンデンサーの部分に PCB が使われているわけですが、このコンデンサーが安定器の中で、樹脂などで固められていなくて、リード線とバンドで結束されているだけで、それを取り外すと PCB を使っている部分と使っていない部分がすぐ分けられるものがございますので、こういったものはコンデンサー部分を分けていただくということで、これを徹底いただくようご説明させていただきました。

また、そういったことが徹底されず、事業所に入ってきた場合には、事業所内でもそういった仕分け作業を実施するということを検討させていただきたいということで、今回はご説明しておりますけれども、その後の取組ということでご報告をさせていただきます。

まず (1) でございますが、保管事業者におきまして、保管場所での仕分け徹底をいただくため、私どもの資料にそういったものを掲載し、周知をさせていただいておりますし、また自治体にもそういったことについてご説明させていただいて、説明会等もさせていただいております。

また、搬入荷姿登録といいまして、ドラム缶の写真を撮っていただいて、私どもにまず、こういった安定器等の登録をいただくわけですが、そういった中に外付け型安定器が明らかに含まれている事業者などもおられまして、こういった方も含めまして、安定器を一定量以上多量に保管されている 166 社の方に対しましては、保管場所での仕分けを再度お願いしたといったところでございます。こういったことを受けまして、幾つかの会社では取り組んでいただきまして、量が確定したところがま

だ2社なのですけれども、その2社では約5トンくらい量が減りましたということでございます。

(2)でございますが、事業所内での仕分けといったものについても、搬入されました安定器の実態調査を昨年行いました。そういったしました結果、外付け型コンデンサーの安定器及びPCBを使っていない安定器の混在が認められましたので、行政手続き等々をさせていただいた上で、昨年末、12月中旬から事業所内でも「仕分け」をさせていただいております。今日の午前中に、その状況をビデオ等々で見ていただいております。

そのフローが、その下に示させていただいておりますけれども、まず私どものところに金属容器に入った安定器を、仕分けテーブルに全部出しまして、一つ一つ確認いたしまして、PCBを使っていないもの、またリード線、バンドを取ることによって取り外せるものは取り外していくということをしております。取り外したものにしましては、PCB濃度を分析した上で、外部の低濃度処理認定施設でも処理できるものについては、そちらで処理をいただきまして、プラズマで溶融するものの量を減らすというところをスタートさせております。

2ページ目の上のところに写真を示させていただいております。左上がドラム缶の中に入っている安定器の状況、右上は、作業員が仕分けテーブルのところで、安定器を取り出して一つ一つ確認している状況でございます。左下が、この確認をした上で同じ種類の安定器を1つの山に分けていまして、PCBを使っているものか、使っていないものかというのを専門の、知見を有しています所に業務委託をいたしまして、判断いただきまして、PCBを使っていないものにつきましては、分析をして低濃度であることを確認して、無害化処理認定施設で処理をしています。また、右下の写真は、リード線等々を切ることによりまして、白く小さいものが黒いものの上に載っておりますが、この小さい白いものがPCBの入っているコンデンサー部分ということで、こういう形で取り外せるものについては取り外して、PCBを使っている部分だけをプラズマ溶融処理をすることで、処理対象の適正化を進めているところでございます。1日も早い処理を目指しているところでございます。

もう1つが2ポツのほうでございます。こちらは小型の電気機器でございます。下のところの左側に写真を示しておりますけれども、10cm角程度の小さいものでございます。3kgよりも小さいものになります。これまで3kgより大きいものにつきましては、真空加熱分離装置で無害化処理をしています、3kgより小さいものはプラズマでの無害化をしておりました。

このような3kgより小さいものでも、それより大きいコンデンサー、真空加熱分離装置で処理するものと、構成部材等々がほぼ同じということですので、それにつきまして真空加熱分離装置でも問題なく無害化できるのではないかとということでのテスト、試験処理を進めているところでございます。これにつきましては、構造部材の確認、またメーカーの意見の聞き取りを行いまして、問題ないだろうということでスタートをさ

せていただいているところでございます。

また、こういった試験の実施につきましては、弊社で、外部に学識委員の方で意見を聞いていただく技術部会といった場がございますので、技術部会にもこの取組をご報告しておりまして、真空加熱分離装置での処理対象物としても問題ないだろうというご意見、ただし処理に伴いまして発生するタール等といったものへの対処については、これまでの経験を生かして対応するようにといったご意見を頂いておりますけれども、安全性に対する懸念といった意見はなかったというところでございます。

次のページです。この小型電気機器、1つの缶に入ってまいりますけれども、その中には基盤上で使用されておりましたチューブラコンデンサ、手の親指大のものにつきまして、塩化ビニルで被覆をされたものも混在するような状況でございます。この塩化ビニルで被覆されているものにつきましては、真空加熱分離装置に入れますと、排気系統を中心に設備の腐食を起こす可能性がございますので、こういったものにつきましては事業所内に搬入後に分別した上で、真空加熱分離装置での処理に適正なものと、そうでないものということで分けた上で処理をするということをしております。

(2) のところからでございますけれども、少量のもの、まずは一度に多くの量を処理するのではなくて、少量の処理をしてみましたということです。写真が小さくて申し訳ございませんが、下のところに写真で示しております。3kg未満の中でも、サンプルを大中小と3段階に分けておりまして、缶の中に1個とか、5個とかを入れて処理をしたというところでございます。左から2番目、3番目が処理をした後の缶の中の状況と、取り出したものをアップで撮ったもの、そして、右の3つはそれを砕きまして、構成部材ごとにどういう状況か、それらを分析した結果が次のページでございますけれども、全てのサンプル、大中小ともに卒業ということで、PCBが全部分離しているということを確認したというところでございます。

次の段階では、ドラム缶の中に100kgずつと200kgずつ入れるということで、量を増やして試験をしたのが、2) のところでございます。上のほうがドラム缶に、1缶当たり100kgずつ入れて4缶を処理しました。下の写真が、1つのドラム缶に200kgずつ入れて4缶を処理しましたということでございます。こちらも、その下の表にありますとおり、3つの構成部材でございますが、それぞれPCBが全部分離できているということで、問題なくPCBが取り除けたということを確認した次第でございます。

(3) 今後の検討というところでございます。12月に、今回、5バッチ連続で小型電気機器だけをVTRで、同じ機器を使いまして処理をいたしまして、回収いたしました油につきまして、どういう状況かというところでございます。トリータビリティ試験といいまして、問題なく無害化するのかどうかをピーカーテストを行ったところ、大きなコンデンサーを処理した場合と同じ条件であったということでございまして、今後、

2月にかけてまして、実機を使いまして、分解処理をしていこうと考えております。

そういったことを踏まえた上で、真空加熱分離装置での処理実施に問題がないということが確認できましたら、平成30年度以降には計画的にこういったものも、真空加熱分離装置での処理対象となります大きなコンデンサーの台数が減ってまいりますので、真空加熱分離装置で処理することが可能と考えておりますので、処理をさせていただけたらと考えております。これもプラズマでの処理を早期に終えるという取組の1つとして考えております。

○JESCO

続きまして、北九州事業所における安全対策について、資料2-2の①を用いてご説明いたします。安全・安定に操業するための前提になります定期点検、機器更新の進捗状況が、この表となっております。平成29年度は通常の定期点検工事の他に、安全に関わる老朽化対策工事や漏洩対策として腐食しやすい配管の更新を計画に反映させ、実施しております。定期点検、機器更新工事につきましては、オンスケジュールで進捗をしております。

続きまして、次のページでございますが、平成29年度安全計画の進捗状況について、資料2-2の②を用いてご説明いたします。まず、表の下段のところに注釈が書いてありますが、白の○印のところは計画の段階、赤の○印、もしくは赤の実線は実施が全て完了したものを示しております。基本的には、計画どおり進捗をしております。

特記といたしましては、下から5段目のところにリスクアセスメント推進活動というのがございます。これは、トラブル防止のために行っていますが、こちらでも計画どおり毎月会議を開催し、大切な安全情報でありますヒヤリハットや、他事業所のトラブルの水平展開の状況につきまして、所長も参加し、しっかりと議論し改善につなげているところでございます。

次のページでございますが、他事業所のトラブルの水平展開の状況について、資料2-2の③を用いてご説明いたします。他事業所のトラブルにつきましては、6ヶ月間で、表にお示ししております漏洩2件の報告がありました。これらにつきまして、速やかに全て事業所内で情報の共有を実施しております。さらに水平展開を行うにあたりましては、絶対に同じトラブルを北九州事業所では引き起こさないという強い決意の下で、類似災害の検討会を運転会社と一緒に開催し、対策に落ちはないか、対策が定着してしっかりと有効に機能しているかまで、確実に検証・確認を行っており、トラブルの未然防止につながっていると考えております。

続きまして、北九州事業所のトラブル事象を資料2-3の①に基づいてご説明いたします。4月～12月までの間に発生した北九州事業所でのトラブルは、表のとおり5件発生しております。前回、7月に開催いたしました監視会議では、同じく1月～6月の6ヶ月間で10件のトラブル

をご報告しております。トラブルの発生件数に関しましては、半分に減少改善しております。これは、前回の監視会議でもご報告いたしましたが、さまざまなトラブルの未然防止活動の効果が現れ、トラブル削減という大きな成果につながった結果であると考えております。引き続き、攻めの安全対策であるトラブルの未然防止活動を推進・実行し、更なる改善を図ってまいりたいと考えております。

続きまして、ヒヤリハットの件数につきまして、資料 2-3 の②を用いてご説明をいたします。表の右の欄に小計を記載しておりますが、実体験のヒヤリハットと、仮想のヒヤリハットを含めると、1 年間で 191 件と、非常に多くのヒヤリハットが現場の最前線で働いている方々から提出をされております。私たちが一番大切だと信じておりますのが、この現場の方々から提出された問題や改善を絶対に放置せずに、いかに早く対処するか。現場の声に耳を傾け、誠実に対応することがまさに安全活動の基本であると考えております。この対応につきましては、毎月の会議の中で事業所長、それから協力会社のトップである社長にも参加していただきまして、確実に対策が進んでいるか。愚直にフォローアップを行っているところでございます。私のほうは以上です。

○座長

説明、ありがとうございます。今の説明に関連しまして、本日の午前中に、私を含めて 10 名の委員が処理施設に視察に行きました。それで、その視察した内容の報告及び今の説明に関して、質疑をお願いいたします。

○委員

今の説明についてですけれども、最初のほうで安定器を保管されている事業者に仕分けを徹底する、進めるということでご説明いただいたのですけれども、これは完全に仕分けができているという確認は、どのようにして行われているのですか。

○JESCO

もう既に仕分けといったものをされている事業者も含めまして、一定量以上保管されている事業者につきましては確認をさせていただいておりまして、仕分けされたところについても、どういった企業が仕分けされたかも含めまして、また、いつされたかなども含めまして、情報を取っているというところでございます。

○委員

私がお聞きしたいのは、つまり仕分けがうまくいってなくて、PCB が使われていないところに PCB が使われたものが入ってしまうという可能性は、その確認はされていないのかということなのですけれども。

○JESCO

私どもの施設内での仕分けと同じく、仕分けしたものについては分析をされて、高濃度のものが外に出ないということは確認されていると伺っております。

○委員

いえ、今日の事業所での視察では、PCBが入っているかどうかという、そういう事業者の方が確認されていましたが、保管されている事業者は、そういうことをやられませんよね。どうやって、その確認をされているかということです。

○JESCO

保管事業者の仕分け行為自体は、一定そういった知見を持った方をお願いをされております。私どもは公益財団法人に委託しておりますが、その公益財団法人がそういった仕分けについての講習会を開催しまして、講習を受けていただいた方が何社かいらっしゃいますので、そういった方をお願いしていただいております。

○環境省

少し補足いたしますと、実態面としては、今の説明のとおり安全面を確保していますが、制度面といたしましても、PCB廃棄物の環境上適正な取扱いをさい最優先するため、特別管理産業廃棄物に指定されております。保管事業者は、そのエリアを管轄する県・政令市に届出をし、特別管理産業廃棄物の保管基準を遵守する必要があります。仕分けをする場合は、届出の内容を変更するということになりますので、これに関しましては、事前に自治体に相談して、どういう取組をするのかということとを報告する、そこで適切な指導を受けているものと了解しております。

○座長

他の方。

○委員

私も午前中に視察をさせていただきました。どうしても、やはり漏洩というのは、10台から5台になったけれども、まだ、これからもきっとあるだろうと思います。ですから、それはやはり処置がきちんとなされるように努力していただければと思います。

漏洩箇所に「漏洩箇所」という名札をかけているのですが、書いている文字が黒くてすごく見えづらいので、よかったら蛍光ペンではないけれども、一目で分かるようにされたほうがいいのではないかなというのの一つ。

それから、床が昨年塗り替えたばかりなのに、頻度が高くて、終了に向けて人々の出入りがすごく多いんだというのがよく分かります。その分、気を引き締めてやっていただきたいと思います。

それと、今の実体験のヒヤリハットですが、実体験のほうで、他はほ

とんど能動的な個人の作業従事者の方の交通事故などですが、その中で飛来・落下というのがあるのですけれども、これは受動なのですか、それとも能動なのですか。要するに、何が飛んできて何が落ちたのかを知りたいのです。

○JESCO

落ちたものは、ボルトというか、そういうものがポロッと落ちたので、人が通っていたら頭にぶつかる可能性があるということで、実体験のほうに区分しています。

○委員

それかなと思ったのです。というのは、少し施設が老朽化というか、経年劣化してきているのかなと思ったのです。

○JESCO

それは作業者が作業していて、下の階に落ちてしまったということです。

表示札のほうも、ありがとうございます。ぜひ改善をして、見える化を進めていきたいと思っております。

○座長

他の方。

○委員

資料 2-1 の 1 ページで教えてもらいたいことがありますので、質問させていただきます。多量保管事業社 166 社のうち、仕分け数量が確定した 2 社からというのは、2 社以外にも協力いただいている企業があるのかどうかということと、5 トンの削減というのは、どれくらいの割合、要は 100% に対して 5 トンが 50% なのかどうかという情報がありましたら、教えてください。

○JESCO

166 社のうち、まず量が確定して私どもにご報告いただいたのが、12 月の時点で 2 社だけだったということで、1 月に入りまして、今、アンケート等々、確認させていただいております。そういったことがまとまりましたら、具体的にご報告できるかと思っております。

5 トンがどれだけなのかというのは、今、頭にデータとして持ち合わせていないのですけれども、前回の監視会議で、そういった保管場所での仕分けをされている産業廃棄物処理事業振興財団の調査では、大体、保管されているものの重量でいいますと 3 割くらい、平均的に削減できているということで、「仕分け」の徹底をお願いしているところでございます。

○座長

他に。

○委員

午前中には参加していないのですが、資料 2-2 でお伺いしたいところがあります。3 ページ目に、非常発電設備始動用バッテリー更新ということで、これは余寿命があるから 11 月の予定を 4 月に変更すると書いておりますけれども、その前のページに、始動用バッテリーについては、いわゆる時間基準保全というところに下線が引いてあります。この言葉だと余寿命があるからということと、時間で取り換えていくこととに少し矛盾するのではないかというのが 1 点。したがって、どういう判断をされたのかということです。

それともう一つ、非常用の発電機ですけれども、これについては非常に、停電した場合の非常電源というのは重要な設備だと思うのですが、いわゆる実負荷試験、実際の負荷をかけての起動試験というものをどのくらいの頻度、年に 1 回だとか、何年に 1 回か知りませんが、実負荷試験みたいなものをきちんとやっているのかどうか、この 2 点を教えてください。

○JESCO

まず、実負荷試験は毎月確実にやっております、起動するのを確認しております。もう一つ、バッテリー更新、時間基準の定期点検のときに、充填されている液を確認したところ、メーカーからもう少し、まだ寿命がそこまで来ていないという結果が出まして、今度の 4 月に更新するよう延期をしました。毎月、稼動テスト、起動テストをやっておりますので、間違いないと思います。その都度、その都度、確認しているところです。

○委員

では、これは時間基準でなくても、液の比重だとか、中のイオン化傾向とか、そういうものを調べた上で判断したということですね。

○JESCO

そのとおりです。

○委員

それと、毎月起動試験をやっているということですが、これは無負荷でやるのですか。例えば実負荷、ある程度の負荷をかけて、30 分以上とか 1 時間近くとかやるのか。単なる起動試験だけだと、冷却性に問題が無いかとかで、バンド冷却水循環用バルブがさび付いていたとかいうことも、私も過去に経験があることなのでお聞きしたいのですが、どうなのでしょう。ある程度、時間をかけて回しているのかどうかということです。

○JESCO

時間は、5 分程度で確認しております。負荷につきましては、通常、きちんと運転できるという確認ですので、負荷をかけた状態になると思います。

○委員

5 分くらいだと少し心配なところがあるので、一度、冷却水用のバルブがさび付いていないかとか、そういう点検をやられたほうがいいと思います。

○JESCO

ありがとうございます。ぜひ確認したいと思います。

○座長

他の方、ございませんか。委員。

○委員

資料 2-3 の 4 番目です。VTR-C 号機というのが、「扉下部に少量の漏れを発見した。一時的に大気圧以上の圧力が発生しシール部の隙間より漏れたもの。」ということで、対応状況で「VTR 復圧時に圧力が上昇しないよう炉内圧力抑制を実施。」となっているのですが、この圧力抑制は、あくまでも自動でやるようになっているのですか。それとも手動でやりますか。

○JESCO

これは結論から申し上げますと、この場合は手動でやることになります。ですから、手順書に落とし込んで、どのポイントで開けて、その後、どのポイントで、どの圧力で締めるかというのは明確にして、間違いないようにしたいと考えております。

○座長

今のことに関連して、VTR の装置自身は液体が発生することを想定したマニュアルは出来上がっていますかということです。これは、普通はガスになってしまうので、液体は存在しないですね。その点は、存在していなかったら、存在するようなマニュアルに直したのかどうか、その点を教えてください。

○JESCO

まさにそのとおりで、一番大切なところでございまして、漏洩する危険性がありますので、今の指示書の中では、さらにオイルパンを置くとか、あとは防御シート、吸着シートを置いて、万が一にも備えるようにはなっております。

○座長

他にございませんか。よろしいですか。それでは、委員。

○委員

資料 2-1、2 ページ目の小型電子機器の無害化のところで、私がよく分かっていないので教えていただきたいです。

3 kg未満のものについて、プラズマ処理をしているのだけれども、真空加熱処理に切り替えることができるかという話です。先にあった資料 1-1 のところでいうと、処理は計画どおり順調に進んでいますというお話だったのですが、これを切り替えることによって、計画以上に、さらに早く処理が完了するようにしたいということですか。

○JESCO

まさに、委員のおっしゃるとおりでございまして、1 日も早く処理を終えよう、処理を進めようという取組でございます。真空加熱分離装置自体は、本来処理しているものが、来年度になりますと対象台数が減りますので、稼動状況に余裕が出てくるところもあります。こういったところを有効活用することで、早く処理が進むと考えております。

○委員

その場合、どれくらいの割合を移行させることで、どれくらい早く終わるみたいな、シミュレーションなり想定なりはされているのですか。

○JESCO

小型電気機器は、プラズマで処理をする場合、安定器を処理する場合に対し、1 kg 当たりに処理をする時間が、2.5 倍くらい時間がかかってしまうものですので、小型電気機器をプラズマで処理するよりも、真空加熱分離装置で処理すると、その分、安定器の処理が早く進むというところについては、確認をしております。

○座長

他には。はい、委員。

○委員

資料 2-3 の①で、3 番目の事例です。ダイオキシンが検出されたということです。これに対して対策が打たれています。下水配管の清掃強化と、ダイオキシン除去用活性炭槽の設置が挙げられています。活性炭を入れたところが分からないので、資料 1-2 の 15 ページに、環境モニタリング調査地点図というのがあります。この図でいうと、どこにダイオキシン類除去用活性炭槽の設置をされたのかが 1 点。

もう 1 点が、下水配管の清掃強化というのは具体的には、週に 1 回とか、どういう決め方をされたのかを教えてくださいと思います。

○JESCO

下水配管の清掃強化というのは、建物の中の手洗いの水が流れていく配管ですとか、トイレの水が流れていく配管、洗濯水が流れていく配管につきまして、この配管を高圧水で全部洗浄したということでございます。これは、操業依頼、建物内の配管清掃、高圧洗浄をやっておりませんでしたので、今回実施し、今後、定期的に3ヶ月に1回程度実施していこうと考えてございます。

あと、活性炭槽の設置場所ですが、手洗い排水のシンクの部分と、洗濯後の水を一時仮置きして、それから活性炭を通過させてから流すといったような取組を追加したところでございます。

○委員

分かりました。ありがとうございました。

○座長

他にございませんか。

今の下水配管というのは、下水処理場に通じて、下水処理として処理されるので、それよりも外には排出されないということによろしいですか。

○JESCO

私どもの施設から、一般環境に直接放流するものではございません。下水処理場のほうへ送っております。

○座長

そういうことですね。分かりました。他にございませんか。

なければ、次の議題に移りたいと思います。議題2の次に移りたいと思います。環境省から、引き続き、説明をお願いします。

○環境省

ありがとうございます。引き続き、環境省から資料3-1、3-2についてご説明させていただきます。資料3-1をご覧ください。「PCB廃棄物の早期処理に係る国の取組」ということで、ご説明させていただきます。

まず1つ目、周知・広報の取組です。上の破線での囲みは、これまでの取組で、政府全省庁が連携して、それぞれ所管いたします関係業界団体に、公文書にて周知するという取組を進めていることを前回もご報告しておりますが、こちらは団体数も増えて、現在1,001団体に対して周知したところです。また、チラシ・ポスターなどを作成して精力的に周知しております。

矢印の下の実線の囲みは、新しい取組として、今後、本当に残っていないのかというところを、本当に最終の確認ということで、広報を広く行っていく内容です。前回の監視会議でも、テレビ等、マスメディアを

使った広報が重要ではないかというご指摘を頂きました。2つ目のやじりを先にご説明いたしますが、この中国・四国・九州エリアにおきまして、PCB 廃棄物が最終的に残っていないか確認していただきたいということを、重点的にテレビ CM の広告を活用した周知を行いたいと考えております。

また上のやじりに戻りますが、Web サイトの広告におきまして、これまでの Web サイトの検索履歴等を活用いたしますと、こういった関係の事業活動を行っている可能性のある Web サイトをご覧になっている方をターゲットいたしまして、広告を出すという機能がございますので、そういったところでの周知も行っていきたいと思っております。

また、チラシ・パンフレットも皆様にご活用いただきまして、上に書いてあるような部数は既に消費しておりますので、急ぎ増刷いたしまして、さらに精力的に広報したいと考えております。

次のページにお進みいただきまして、上のスライドは、政府の率先実行の取組です。昨年度の法改正を受けまして、処理の基本計画を閣議決定計画に格上げしております。これに基づきまして、各省庁がそれぞれ実行計画というものを策定・公表して、取組を進めていたところです。こちらの取組は、さまざまな取組をしておりますけれども、まず最初に期限を迎えます北九州エリアの変圧器・コンデンサーにつきましては、昨年の9月の時点で、全省庁が率先して処理できている状況を確認して、取りまとめ済みです。今後といたしましても、他のエリアでも率先して処理するために、全省庁を挙げて取組を進めていくことと、基本的には毎年度秋ごろに取組をまとめて公表させていただくということで、引き続き、取組を進めさせていただきます。

下のスライドが、この北九州エリアに特化した取組です。まず、処分期間を終えるにあたりまして、最終的に抜け漏れがないかというところを、我々は掘り起こし調査と呼んでおりますけれども、PCB 特別措置法はもとより、もともと使っております、電気工作物を規制いたします電気事業法にも基づきまして、都道府県・市・産業保安監督部、これは経済産業省の出先機関ですが、これと環境省、JESCO が連携して、さまざまな取組を行っております。

まず電気事業法に基づく取組といたしまして、昨年度の PCB 特別措置法改正に合わせまして、電気事業法の省令も改正しております。これによりまして、こういった変圧器・コンデンサーなどを管理いたします電気主任技術者、これは法律上、この技術者を設置しなければなりませんけれども、こういった方々が年次点検などの機会を活用いたしまして、掘り起こし調査をするということが義務づけられておりました。こういったものを活用いたしまして、昨年11月までに一通りの、現在使われている工作物の確認を完了しているものです。

こういったところから見つかったものに関しましては、遅くとも11月末までに JESCO での契約手続きに着手するよう、経済産業省からも指導を開始しているところでございます。ただ、抜け漏れがあったものについて、この後も見つかってきているものについては、見つけり次

第、速やかに手続きするよう、引き続き、経済産業省の出先機関から指導にあたっているところです。具体的には、現場の立ち入り検査なども精力的に行っておりまして、指導にあたっています。

また、先ほど申し上げたとおり、今年度内に処分ができない場合は、来年度以降、法的措置を講じます。PCB 特別措置法に限らず、電気事業法でも、技術基準適合命令という行政処分の措置がございますので、現在、それを年度明け早々に開始できるように、指導や情報収集を行っているところです。

次に、PCB 特別措置法に基づく掘り起こし調査ですが、こちらにつきましては、自治体を中心に掘り起こし調査を行っておりまして、現時点でおおむね完了しているところです。また、環境省も、地方環境事務所の体制を増強して取組に協力しているところです。これは次のスライドでご説明いたします。

また、最後のポツでございますけれども、先ほどご質問頂いた際にご回答しておりますけれども、来年度に向けての準備を着々と進めているところになります。

次のスライドに進んでいただきまして、地方環境事務所が、この 4 月から体制増強しておりますが、こちらにおります福岡事務所長の岡山が陣頭指揮を執りまして、現在 13 名の体制で、精力的に PCB 廃棄物の掘り起こしの漏れがないかという確認と、見つかったものを速やかに処分する指導にあたっているところです。主な取組の紹介として、例えば、掘り起こし調査の結果、持っているか持っていないか分からないと、事業者が見ても PCB が入っているか分からないといった所には、直接お伺いしまして、現時点でそういった不明という所はない状況まで確認しております。

また、先ほど、掘り起こし調査の対象というのが、電気事業法上、変圧器・コンデンサーを使っている方々を対象に調査していると申し上げましたが、そういった法律の管轄外に、鉄道等で使われている変圧器・コンデンサーといったものがありました。そういった鉄道・軌道、索道、ロープウェイといった事業者にも、この中国・四国・九州の全てのエリアに存在する事業者には直接確認をいたしまして、残っていないことを確認しております。

こういった調査をして出てきたものに関して、まだ JESCO に登録してもらっていない、処分の見込みがない所についても、自治体などと連携して処分を促しております。具体的には、一義的には自治体が指導することですけれども、面会拒否ですとか、一定期間進捗がない所については、自治体のみならず、国の職員も同行して、また必要に応じて JESCO も一緒に同行して、指導にあたるということをして、一つ一つ、契約していただいているところでございます。

また、使用中の電気工作物は経済産業省の所管ではございますけれども、環境省、自治体とともに事業所に指導にあたることに取り組んでいるところです。

また最後に、電気事業法上届出があり、使用中の届出をしております

て、それを廃止後に JESCO で処理の実績がないということがありますと、廃棄物として滞留している可能性がありますので、そういったデータ面からも精査して、抜け漏れがないように指導している状況です。

この現場の体制につきまして、下のスライドですが、来年度、さらに体制の増強を行う予定です。具体的には、下のスライドの赤印、中国・四国の事務所と、九州の事務所ですらに 2 名ずつ、計 4 名を体制増強いたしまして、来年度になってもまだ処理ができていない事業者への行政処分をしっかりと行います。また、変圧器・コンデンサーが終わった後の安定器・汚染物の指導についても、引き続き、しっかりした体制で取り組んでいきたいと考えております。また、このエリアの取組を教訓としまして、さらに東のエリアについて、この取組をさらに拡大展開していくこととなりますので、その他の地域についても、計 4 名の体制増強をしていきたいと考えております。

次のスライドは、来年度の関連予算の概要です。内容としては昨年度と継続の事業でございますので、詳細は割愛いたしますけれども、予算事業といたしましては、大きく 5 つの事業がございます。

1 つ目の PCB 廃棄物適正処理対策推進事業、これによりまして、今ご説明しましたような掘り起こし調査ですとか、処理の指導にあたるためのサポート予算を計上しております。

また、2 つ目の補助金で、処理を実際に行っていただきます事業者の処理費用の負担軽減、特に中小企業の方々や、個人でお持ちの方々に対して、70%及び 95%の補助をするという予算。これも引き続き、計上しております。

その次の予算、拠点施設整備事業は JESCO の施設が老朽化している所に対して、安全操業を確実にするために、補助事業をしっかりと、引き続き、行っていくものでございます。

その次に、PCB 除去・原状回復事業となります。こちらについては、事業が完了した後に、速やかに土地をきれいにして皆様にお返すために、現在も積み上げて、準備を着々と進めているところでございます。

最後の事業は安定器の関係でございますけれども、PCB を使っている照明器具を LED に交換いただく際には、それを補助して、この処理を促進するという事業。これら全ての事業を引き続き、しっかりと予算を組織して取り組んでいきたいと考えております。資料 3-1 のご説明は以上です。

続きまして、資料 3-2 のご説明です。「北九州市受入条件の履行状況」ということでございます。北九州エリアで PCB 廃棄物の処理を進めさせていただいておりましたが、一度、期限を延長させていただいております。この際に、受入条件ということでご提示いただきました条件について、それぞれしっかりと取組を進めさせていただいているところですが、毎年度、この時期に、取組状況をご報告させていただいております。内容が多くなっておりますので、継続して取り組んでいるところは割愛しつつ、主に変わった点についてご報告させていただきます。

まず「1. 処理の安全性確保」のところでございます。こちらについ

ては、主に JESCO での処理を確実に安全に行うため、さまざまな取組をするよう、条件を頂いておりました。

①のところですが、先ほど JESCO から報告があったとおり、トラブルの件数などを更新させていただいております。今年度は、施設内漏洩はございますけれども、事業所のトラブルを水平展開するなど、しっかり取り組んでおりました、幸い、大きなトラブルなく取り組んでいるところです。引き続き JESCO での取組をするよう、環境省としてもしっかりと指導・監督を進めていきたいと考えております。

裏面にいただきまして、④のところですが、JESCO 施設内に限らず、地域を輸送する運搬業者に対しても輸送規制を順守していただくこと、また周知を徹底することと条件を頂いております。これにつきましては、JESCO において、新たに輸送を行う運搬事業者に対しては、しっかりと順守していただくように、入門許可時の個別説明を、個別に行っております。これに加えて、年 1 回、全ての運搬事業者に対して説明を行うということで、次回は 3 月に予定しておりますけれども、こういったものをしっかりとやっていくということです。

これに合わせまして、抜き打ち検査というのも実施しております、今年度につきましては 7 月、8 月に 2 回実施しており、こういった合わせ技で、輸送規制についても順守を徹底していきたいと考えております。

以降のところについては、引き続き取り組んでおまして、⑥のところ、自然災害があった際、気象庁等が持っている情報を速やかに JESCO に伝えて防災取組をするということですが、この期間においては、幸い、そういった必要性の生じるような災害というのはなかったということでございます。

次のページに進んでいただきまして、「2. 期間内での確実な処理」でございます。

まず 1 点目の高圧変圧器・コンデンサーの取組については、先ほどのパワーポイントでもご説明させていただいた内容を書いておりますけれども、1 点目で 1 つご説明が漏れているところですが、JESCO におきましても掘り起こし・総ざらいプロジェクトチームというものを立ち上げまして、北九州事業所の営業所において、人的な派遣も含めて、各種支援を自治体に対して行っているということで、先ほどの私のご説明に加えて、JESCO でも連携して処理を促進する取組を進めているところです。

次のページに進んでいただきまして、(3)、このページは関係者の連携強化というところで書いています。①は先ほどご説明した地方環境事務所の体制強化が書かれているところです。

②が、都道府県市、自治体の皆様において、掘り起こし調査を進めておりますけれども、環境省としましては、こういった取組のフォローアップを年 2 回行っております。このフォローアップを 2 回目は年度末に向けて行うことになっており、北九州事業エリアにおきましては、先ほど申し上げたとおり、おおむね完了しておりますし、次回の進捗状況の管理では、全て完了しているという状況になろうかと思っております。

③では、環境省としてもしっかり予算を確保して、支援をしていくということになっております。1つ目のポツで、地方環境事務所の職員の体制を増強するということをご説明しましたが、これ以外にも予算措置で、PCBに関する相談窓口を設置するということをしておりまして、希望する自治体には、自治体の皆様のマンパワーが足りない所に関して、問い合わせの対応を代行することを実施したり、2つ目のポツで、掘り起こし調査の際に、PCB 廃棄物の判別ですとか事業所の保管場所を、PCBが残っていそうな所を特定するため専門家派遣を行うことなど、精力的に行っているところです。

次のページで、それぞれ取組は引き続き実施しているところですが、一番最後、⑦のところで、先ほど申し上げた事業終了後の解体撤去につきまして、予算措置をしっかりと講じて処理を進めていくということで、平成 29 年度までに 120 億円の措置をしているということで、こういったところでの予算的措置はしっかりと確保していきたいと考えております。

裏面にいっていただきまして、こちらは当然ながら変わるものではございませんけれども、いかなる理由があろうとも、処理期間の再延長はしないということで、我々といたしましては、安全性の確保を大前提といたしまして、期間内に1日でも早く確実に処理をするということで、引き続き、取組を進めていきたいと考えております。来年度末のお約束期限の前に、法的措置などを講じられるような体制を講じておりまして、これを確実に遂行していきたいと考えております。

次に、「3. 地域の理解」ということで、取組でございます。こちらについては、引き続き、取組をさせていただいているものです。(1) のリスクコミュニケーション、(2) の地域密着型の事業と取組、(3) の理解・協力の促進、(4) の他地域の水平展開など、これは引き続き取組をさせていただいているものです。

また、(5) の北九州市の環境未来都市としての取組を、さらに発展・展開するような密接な連携ということで、これは国としても北九州市にお力添えをいただき、取組を進めていきたいということで、ここに例示を挙げているのはごく一部でございます。北九州市とはさまざまな取組を進めさせていただいておりまして、環境の取組、PCBに限らず、さまざまに進めていきたいと、これは引き続き継続させていただきたいと考えております。

最後に、「4. 取組みの確実性の担保」というところです。こちらについても、引き続きの取組ではございますけれども、北九州市と密接に連携をいたしまして、この取組をしっかり続けていくということで、この受入条件を全てしっかりと履行し、期限内の処理を確実に遂行するということが続けていきたいと思っております。こちらの支援については、時間の関係上非常に省略しながらご説明いたしましたけれども、私からの説明は以上でございます。

○座長

議題 2 に関して、引き続いて、北九州市のほうから報告をお願いします。

○北九州市

それでは、私からは資料 4-1 に基づきまして、安全かつ早期の処理完了に向けた市の取組状況について、ご説明させていただきます。

「1. 処理の安全性の確保」でございます。まず、JESCO 北九州事業所に対する本市の監視指導でございますけれども、毎月ペースで事業所へ抜き打ちの立ち入り検査を行ってございまして、前回の監視会議以降では、月平均いたしまして 5 回立ち入り検査をお願いしてございます。2 点目、事業会社と運転会社によるリスクアセスメント推進会議というものがございまして、これにも毎月参加をいたしまして、リスク情報等を把握するなど、しっかりと監視指導を行って、適切な操業管理を徹底してございます。

次に、輸送路の安全対策事業でございます。こちらは PCB 廃棄物の安全な輸送を確保するために昨年度から実施していましたが、そのうちの若戸大橋の改修及び響灘大橋以降、JESCO の処理事業所までの道路の補修工事が完了いたしました。

「2. 期間内での確実な処理」でございます。処理期限内の 1 日も早い PCB 廃棄物処理の完了に向けまして、まず (1)、関係自治体 68 自治体参加の下、昨年 7 月 26 日に西日本広域協議会というものを開催してございます。これは毎年、年 2 回開催してありますが、参加自治体から、期間内処理に向けた掘り起こし調査などの取組状況のご報告を受けて、その確認。併せまして、本市からは参加自治体に対して、期限内処理の達成に向けて、なお一層の取組強化について要請をしております。

また、今年度末には、先ほどから議論の中にも出ていますけれども、変圧器・コンデンサーの処分期間の末日を迎えることから、岡山県以西 36 自治体に対しまして、期限内処理達成に向けた取組の徹底について、福岡県と本市の連盟で要請文を発出してございます。

さらに、環境省、JESCO、それから北九州市の三者で PCB 廃棄物の JESCO に対する処分委託状況の進捗管理会議を毎月開催してございます。その中で、期限内処理の達成をより確実なものとするため、あらゆる手段を講じているところでございます。その上で、課題を抱えている自治体、いわゆる契約がなかなか滞っているような自治体に対しましては、環境省とともに随時訪問して、情報共有、さらなる取組の強化の要請等を行っているところでございます。

裏面を見ていただきまして、「3. 地域の理解（情報発信）」でございます。情報発信につきましては、既存の情報発信施設、若松区内にございます環境・コミュニティセンターにおいて、PCB 事業を分かりやすくご紹介しておりますパネルの設置だとか、あとは専用のホームページの検索機能の強化など、利用しやすい環境を整えてございます。今後も、PCB 処理に関する情報を広く、かつ丁寧に市民の皆様にお知らせしてまいりたいと考えてございます。

また、(3)でございますけれども、若年層に PCB 処理事業について知っていただきたいという観点から、昨年の 6～7 月にかけて北九州高専の生徒 185 名を対象に、PCB 処理施設の見学ツアーを実施いたしております。今後も高校生とか大学生といった若年層に対する啓発を、継続してまいりたいというふうに考えてございます。

資料 4-1 の説明については、以上でございます。

○座長

ただ今の議題 2 に関する環境省及び北九州市の説明に関して、質疑等をお願いいたします。

○委員

資料 3-1 で、掘り起こしの話が出てきました。確か去年だったと思いますが、西南女学院で蛍光灯の安定器の破裂事故がありましたけれども、ああいう古いオフィスですとか、電気事業法が当然管轄外のところ、多分、もう 1 回チェックしているのだけれども、チェック漏れがあったりというところが、なかなかもう一度チェックするのは難しかったりすると思うのです。その辺の対策というのは考えておられますか。

○環境省

ご指摘いただきましたとおり、公共施設からも、古い安定器がまだ使用中のまま残っておりまして、それが破裂してしまうことがありました。幸い、人体には環境に影響のない形ではございました。

こういったものが起き次第、関係省庁、文部科学省とも情報を共有して、関係団体には再周知するという事は取り組んでおります。これにより、再度確認してもらうという機会を作るということとしております。

加えまして、先ほどの掘り起こし調査のところで、現在取組が完了している所は、ご指摘のとおり、変圧器・コンデンサーの所有者を中心に調査しております。当然ながら、安定器も併せて探していただいておりますけれども、対象者が完全にカバーしきれていないわけではありません。こういった所をどのように効率的・効果的に調査を進められるか、現在、環境省でモデル事業などを行いながら、追加的・補完的な調査がどういったものが必要かというところの検討をしておりますので、安定器・汚染物の取組として進めていきたいと考えております。

○座長

他にございませんか。

○委員

資料 3-2 の、5 ページの⑦、事業終了後の話なのですが、来年度予算でも 35 億円、PCB 状況・原状回復事業費ということで、積立がされるようなのですが、対策の最後に、「施設の解体・撤去については、十分な時間的余裕を持って、北九州市と協議することとし、技

術的な検討を開始しております。」と書いてありますけれども、全部終わるのが平成 34 年の 3 月 31 日までということですが、もうあと 4 年です。技術的な検討を開始しておりますということですが、現実、どの程度までお話しされているのでしょうか。

○環境省

こちらにつきましては、現在、JESCO において技術的な検討を進める有識者会議がございます。ここでこういったものがどれくらいの量が発生するのか、それぞれの段階でこういった処理が必要なのかという検討を進めておまして、その処理技術の検討に加えまして、労働安全衛生の観点での検討を進めていただいているところです。

現在のところ、具体的にいつまでと申し上げられる状況ではございませんけれども、当然ながら確実に、解体・撤去が必要な段階になる前にしっかりと知見をまとめて、取組が滞りなく進められるようにしていきたいと考えております。

○座長

他にいいですか。

○委員

ちょっと戻っていいですか。

○座長

戻っていいですよ。

○委員

すみません。どうしても小骨が刺さったように引っ掛かった件があったので、戻らせてください。資料 2-3 の①の、真ん中の 3 番のトラブル事象のところですが、確か、北九州の施設は水の心配はないと言われていたような気がするのですが、このダイオキシンというのは、時間の経過で出てきた事象なのか、いわゆる工場施設というものには起こり得る事象なのか、それとも PCB を扱っているが故の事象なのかをお伺いしたいです。

○JESCO

今回のこの資料でご説明している、1 期（北）最終汚水槽でのトラブルについてでございます。こちらは、施設から下水排水の処理場へ送る槽の所からサンプリングした排水中のダイオキシン類濃度が、一時的に高くなったというものでございます。同じ検体で、PCB の濃度は協定値を下回っていたというわけですが、結果判明後に直ちに原因究明をしたのですが、処理工程からの水ではなかったということです。処理工程からは水は一切出ませんということですが、処理棟を退出した際に手洗いをした排水、また、作業着の洗濯排水といったものに一部存

在したダイオキシン類が、長年の間に、排水管に付着した固形物に蓄積したのではないかと考えています。それが一時的にはがれ出たものと考えておりまして、対策のところでご説明しましたとおり、建物内の細かい配管類を高圧水で洗浄いたしまして、一斉に除去しました。除去した排水につきましては全て回収いたしまして、適正に産業廃棄物として処分した次第です。そういう状況でございます。

○委員

ですから、レベル3から外には一切PCBは持って出ないということが徹底されているのかしらというところに、少し疑問符が付くのではないかと思いますので、今後調べていただければと思います。

○JESCO

引き続き状況を調査いたしまして、併せて、先ほど申しましたとおり、3ヶ月ごとに清掃もいたしまして、二度とこういうことがないようにいたしたいと思っておりますが、また分かりましたらご報告させていただきます。

○座長

今回の話というのは、例えば、人が出入りするときに、作業着等が要するに出入りするわけで、レベル3から決して漏れ出ないということは不可能なのです。ですから、それに対してきちんと、漏れたものとか、作業着に付着したりしたものに関しては処理するということで、対処されたということですね。微量なのですけれども、蓄積する可能性があるということだと思います。

○JESCO

そういうことでございます。

○座長

他にはございませんか。

○委員

資料4-1の、1の(2)「輸送路の安全対策事業の実施」というところがございます。PCB廃棄物輸送路の安全対策事業としてということで、ここに最初に若戸大橋というのが出てきております。若戸トンネルができる前は頻繁に若戸大橋を通るということで、一方的な交通機関だったようでございますけれども、町の真ん中を通るのは非常に危険で、安全というところでは危ないのではないかと、町の声が非常に大きく聞こえてくる機会がありました。

今、若戸大橋と若戸トンネルの割合というか、もちろん重量にもよりまずでしょうけれども、そういう意味ではトンネルの利用量はいかがでございましょうか。

○北九州市

若戸トンネルと若戸大橋の PCB 廃棄物を使った運搬車が、どれくらいの割合で使われているかということでございます。正確な数字は持ち合わせてございませんけれども、若戸トンネルの利用率が高いと我々は認識してございます。若戸トンネルにつきましても、若戸大橋の改修工事に先立ちまして、中の舗装のやり替えだとか、中はやはり暗いので、よく見えるようにカラー舗装するとか、そういった対策は既に講じられております。

併せまして、ハード部分だけではなくて、受け入れ時から継続して行っておりますけれども、収集運搬車の前には先導車を付けて、安全確認を確実なものにしていくという運用面での対策も講じているところであります。

○座長

JESCO は何か、今の本件についてありますか。

○JESCO

JESCO としましては、輸送いただく場合には計画書を収集運搬会社から出していただいております。現状ではトンネルを利用される方のほうが多いということでございます。

○座長

例えば、トンネルを通るようにという指導はしないのですか。それを知りたかったのです。

○北九州市

指導するかしないかという問いに対する直接的なお答えとすれば、指導まではしてございません。北九州市として、輸送路として両方とも認めてございますので。あとは、先ほど、年に 1 回、収集運搬事業者に対して JESCO が研修をして、しっかりと指導してございますので、その中で、より安全な運送を心掛けてくださいということなので、その結果、若戸トンネルを活用される事業者が多いものと認識してございます。

○座長

よろしいですか。

○委員

若戸大橋が近々無料になるということでございますので、そのことに対しても、割に若戸大橋を通ることが多くなるのではないかと危惧しております。よろしくお願いいたします。

○座長

他に、ご意見ございませんか。

環境省に聞きたいのですけれども、解体の費用というのは国が持つわけでしょうかという話と、設備をつくったときは、費用負担は、処理費には上乗せしていないのですよね。設備を設置する費用は。どちらなのですか。処理の費用を、要するに PCB を使用していた業者に負担、課金していることになっているのですか。

○環境省

今、正確な数字を持ち合わせておりませんが、当然ながら国費を投入して設備の整備と解体・撤去を行うことにしておりますが、全額というわけではございません。一定割合を JESCO の事業の中から捻出しております。これは、もともと PCB 廃棄物の処理というのが、排出事業者責任の下で処理をするということになっておりましたけれども、その処理が進まないということですか、国際情勢の変化、条約ができたということもありまして国が主導して処理をする、国が主導すると言いましても、全国民皆様に負担を頂くということになりますので、そういったところでの一定割合で処理をお願いする保管事業者からの費用負担と国費での投入ということで、両方でやらせていただいております。

○座長

全体を通じてでもよろしいのですけれども、他に何かございませんか。

もう 1 件、最終的には改善命令のあと、行政代執行を行うのですけれども、その時の費用等に関して、自治体が持つのですか、それとも国が持つのですか。仮払というか、一時的な負担というか。

○環境省

まず、行政代執行というものは、その保管事業者に代わって行政が行うということでございますので、あくまで費用負担の責任は事業者にあります。仮に代執行となった場合、自治体は事業者に対して求償する権利を持ちますので、費用を回収させていただきますので、代執行になったからと言って、保管事業者の責務が免れるわけではございません。

ただ、回収できない場合に、自治体の負担というのは大きくなってしまい、事務が滞る可能性があるというご指摘を頂きまして、国と PCB などを製造したメーカーから拠出した基金を設置しております。この基金から速やかに、まず 4 分の 3 の費用負担を行うということで、国・事業者・自治体ということで費用負担をしながら円滑に取り組んでいくというスキームでやっていく予定です。

○座長

他に。

○委員

今の問題なのですが、事業者が存在している場合はいいでしょうけれ

ども、奈良県の中に、確か、もう既に倒産してしまった企業体もあるというふうに出ていましたけれども、そういう場合、どこから最終的に負担させるのかという問題が出ると思うのですが。

○環境省

おっしゃるとおり、今申し上げたのは、その事業者が存在をされていて、処理に拒否をするという方々に対してのスキームでございます。不存在のものに関しては、やむを得ずと言いますか、行政側で負担をして処理をするということになりますので、自治体及び国・製造事業者で負担をするということになります。

○座長

よろしいですか。他にございませんか。

○委員

環境省ですね。資料の3-2の4ページの③について、活動の内容で分かる範囲で教えてもらいたいものがあります。「環境省において以下の取組を実施しました」ということで、4つ黒ポツがあります。その中で、例えば相談窓口の設置と専門家派遣ですけれども、実質、相談においては、窓口を設置したことによって、どのくらいの相談があったのかということ。それで、主な相談がどんなものかということです。あと、専門家派遣については、都道府県市ですから、かなりの場所になるのでしょうか、専門家をどのくらい派遣したかという、その辺の情報が分かりましたら教えてください。

○環境省

申し訳ありません。まず、件数については今ちょっと、手持ちですぐに出てくる状況ではございませんので、また、まとめてご回答させていただきます。

ただ、相談窓口に関しましては、自治体のホームページに、自治体のお電話番号を掲載するだけではなくて、我々が設置いたしましたフリーダイヤルを合わせて掲載させていただき、日々の問い合わせを受けるというパターンが1つと、もう1つは掘り起こし調査を行う際に、まず調査票を配布いたします。それを配布しますと、事業者の皆様からの問い合わせが殺到するということになりますので、期間としては1ヶ月くらいでございますけれども、その調査票にどう答えていいのかというところを、実際の自治体ごとの調査票を見ながら回答させていただくということをこの事業でやっております。

また、専門家派遣というものにつきましては、自治体が、アンケートでも回答いただけないとか、電話でも分からないという各事業者の所に訪問する際に同行するというものです。これは、全国で要請があった所に行くということでやっているパターンと、出先機関で保健所職員向けの研修、講習を行うための講師派遣をすることをやらせていただい

る状況です。

○委員

こういった手段の効果があるのかどうかという観点からの分析をしていただければと思っていますので、よろしくお願いします。

○環境省

承知いたしました。自治体の皆様から好評いただいていると言ったらおかしいのですが、かなり活用いただいております。来年度の継続も要望を受けております。こちらについては、継続を決定しておりますので、速やかに来年度の体制も構築したいと思っています。

ご指摘いただきましたとおり、効果を把握して、それをより改善につなげていくのは重要な観点ですので、頂きましたご指摘のとおり取組を進めさせていただきたいと思います。

○委員

低濃度の PCB 処理施設の終了と、高濃度の施設の終了と、PCB というキーワードが終了するのは同時期なのですか。

○環境省

低濃度の PCB 廃棄物の処理期限というのは、平成 39 年 3 月 31 日ということになっておりますので、高濃度の PCB 廃棄物の処理より後になります。

○座長

他にございませんか。

では、なければ、本会議を終了させたいと思います。議事を市のほうにお返しします。

○事務局

座長、委員の皆様、長時間にわたるご議論、ありがとうございました。本日、頂戴いたしましたご意見につきましては、今後の PCB 処理事業に対する監視指導に、しっかりと生かしてまいりたいと思います。

次回開催につきましては、また関係者の皆様と調整の上、決めさせていただき、あらためて、ご連絡させていただきます。

それでは、以上をもちまして、「第 39 回北九州市 PCB 処理監視会議」を閉会いたします。本日は、誠にありがとうございました。

〔終了〕